

医学部附属看護専門学校

令和5年度自己点検・評価及び学校関係者評価 報告書

1 目的

医学部附属看護専門学校（以下「本校という」）において実施した自己点検・評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者（以下「学外評価者」という）による評価を受けることにより、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることなどを目的とする。

2 基本方針

本校において、自己点検・評価を実施し、「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成25年3月策定）を参照の上、数名の学外評価者による学校関係者評価を実施する。

① 自己点検・評価の実施

本校において、点検・評価項目を4項目設定した。

学校関係者評価実施前に、本校において、各点検・評価項目について自己点検・評価を行い、その結果について以下の4段階の取組評価をし、「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）を作成した。

（A：十分できている，B：おおむねできている，C：一部改善が必要，D：できていない）

<点検・評価項目>

① 教育課程・教育活動は適切に実施・評価されているか。
② 学生の単位修得に向けた支援を実施しているか。
③ 学生の支援を適切に行っているか。
④ 広報活動は適切か。

② 学校関係者評価の実施

- (1) 学外評価者による評価は、本校からの提供資料によるほか、授業、学校行事等の見学、校長・教職員及び学生等との面談により行った。
- (2) 本校から「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）の各評価項目についての資料等を提示し、評価結果及び取組状況等を学外評価者に説明した。

(3) 各学外評価者が、評価結果について「自己点検・評価及び学校関係者評価票」(様式2)にまとめるとともに、以下の4段階により評価した。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

(4) 学外評価者の互選による代表者は、各学外評価者が記述した「自己点検・評価及び学校関係者評価票」(様式2)を取りまとめ、「自己点検・評価及び学校関係者評価報告書」(様式1)にて評価結果(総評)を作成した。

3 学外評価者

① 卒業生

東 百代 (昭和61年日本大学医学部附属看護専門学校卒業)

② 学校の専門分野における関係団体・関係業界

佐藤 みちよ (日本大学医学部附属板橋病院看護師長)

③ 地域住民

田草川 幸子

④ 保護者代表

見上 祐子

4 学校関係者評価協議会開催日時

① 第1回 令和5年10月18日(水) 午後3時～午後4時30分

② 第2回 令和5年12月19日(火) 午後3時～午後4時

5 評価結果(総評)

令和5年度の自己点検・評価項目について、昨年度の課題、要望意見を踏まえ評価項目が検討され、4つの点検・評価項目が挙げられており、適宜評価を行った。

点検・評価項目①, ②, ③の取組内容については、学校の自己点検・評価結果と学校関係者の評価とがおおむね合致していた。例年多い原級留置者への対応、ポータルサイトの活用、専任教員による丁寧な学習指導・支援等、学生支援に余念がなく、多様化する学生個々に向き合っていることがうかがえる。これは、学生の学習意欲を喚起し、維持・向上につながると思料する。看護師国家試験の合格率は、全国平均を上回っており、学生・教職員双方の努力を垣間見ることができる。日本大学病院及び日本大学医学部附属板橋病院(以下「付属病院」という)への就職は、毎年一定数はいるものの、更なる安定した輩出と採用が見込めるよう付属病院と本校の連携を密にしていくことが望まれる。

点検・評価項目④の広報活動については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、学校説明会、模擬授業及びオープンキャンパスは、一部を除き、対面形式で対応した。その内容は、入試情報から就職状況、学生生活に至るまで、志願者のみならず、その保護者にも目を向けた戦略的な広報活動がされ、継続した実施が必要であり、適切であるとの結論に至った。なお、令和6年度以降の支援方

法の見直しにおいて、様々な原因により志願者が激減している状況下で具体的な支援方法の確立が望まれる。中でも、経済的負担軽減の方策が志願者確保にもつながることなので、どのような支援策が必要か精緻に検討し、実効性の高い内容の構築が望まれる。

最後に、貴校がある日本大学医学部キャンパスの再整備等に伴い、教室や実習室等への移動が多く、学生、教員共に負担が大きいと感じる。学生の学習意欲の低下を防ぐべく、早期の教育環境の整備・改善が行われることを期待する。

以 上